

農作物技術情報 第8号 果 樹

発行日 平成30年10月25日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

◆ りんご 「ふじ」の成熟は平年より早め！適期収穫に努めましょう！

りんご

1 生育状況

まずもって、台風第24・25号の暴風により、落果・倒木被害にあわれました生産者におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。何かとご苦勞も多いと思いますが、一日も早く復旧できますことを切にお祈り申し上げます。

(1) 果実肥大(表1)

定点観測地点の「ふじ」の果実生育(横径)は、平年並からやや大きめとなっています。

表1 県内の定点観測ほ場における果実生育(横径)状況(10月21日時点)

単位:mm

市町村・地区・公所	ふじ				
	本年 (H30)	平年	比	前年 (H29)	比
農研センター	91.8	89.5	103%	89.3	103%
岩手町一方井	89.4	89.1	100%	89.1	100%
盛岡市三ツ割	87.0	88.6	98%	86.8	100%
紫波町長岡	95.0	90.4	105%	90.6	105%
花巻市上根子	87.0	87.0	100%	88.1	99%
北上市更木	99.7	92.0	108%	90.3	110%
奥州市前沢稲置	88.1	90.6	97%	88.8	99%
奥州市江刺伊手	90.1	86.7	104%	86.9	104%
一関市花泉町金沢	84.5	86.4	98%	87.0	97%
一関市大東町大原	89.5	88.7	101%	84.9	105%
陸前高田市米崎	93.0	88.6	105%	90.6	103%
洋野町大野	83.2	87.7	95%	83.6	100%
二戸市金田一	97.6	91.1	107%	95.6	102%
県平均値(参考)	91.0	89.2	102%	89.5	102%

※ 県平均値に農研センター・洋野町の数値は含まれていない

(2) 果実品質 (図1～4)

21日時点の「ふじ」の果実品質は、県平均で平年より、硬度は低く、糖度は高く、デンプン指数はやや低く、蜜入り指数は平年並となっています。

これらから「ふじ」の成熟は、総合的にみて平年より進んでいると考えられ、特に硬度の低下が早い傾向にあります。従い、収穫が遅れると貯蔵性の低下や裂果の発生も懸念されますので、蜜入りを期待するあまり収穫が遅れないよう、適期収穫を心がけてください。

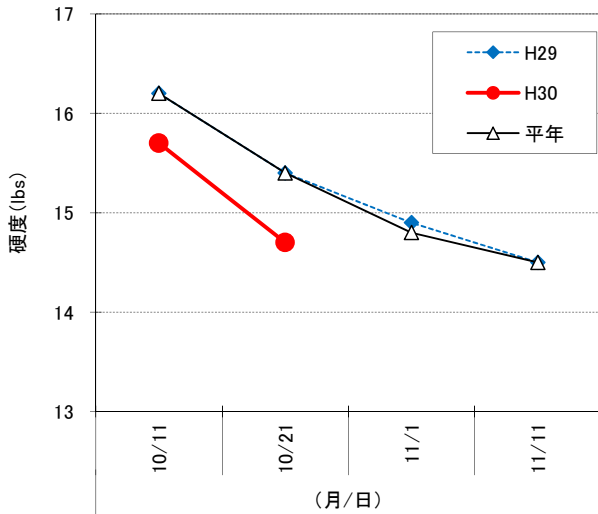


図1 ふじの硬度の経時変化(県平均)

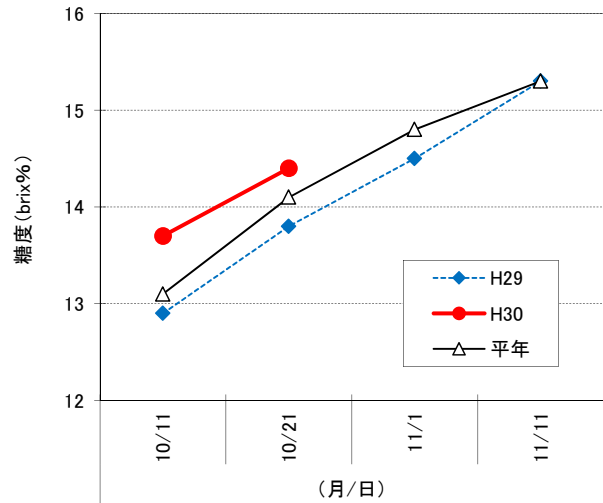


図2 ふじの糖度の経時変化(県平均)

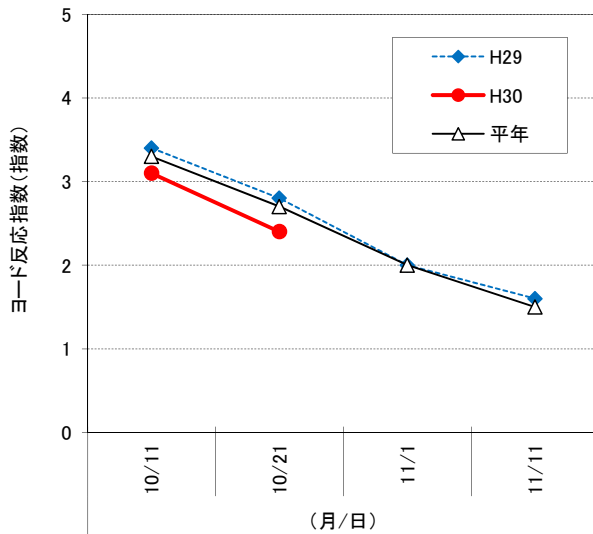


図3 ふじのデンプン指数の経時変化(県平均)

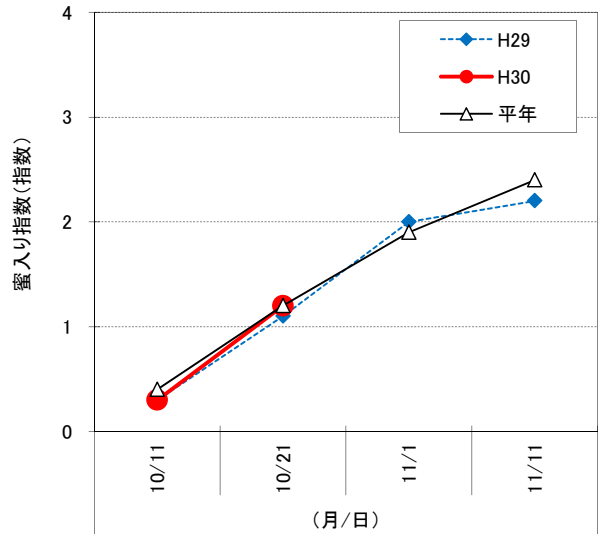


図4 ふじの蜜入り指数の経時変化(県平均)

2 栽培管理の要点

(1) 晩生種の収穫

「ふじ」は食味を重視して収穫しましょう。蜜入りを意識し過ぎて遅くまでならせると、果肉の軟化や果実の樹上凍結の危険、降雪による収穫の遅れが出てきますので、適期収穫を心がけます（表2）。また、養分の消耗が、樹体の凍寒害につながる恐れもありますので、注意してください。

表2 ふじの収穫開始期の目安

品種	満開日※	販売時期	満開日 起算日数	満開日起算 による収穫予想日	硬度 (lbs)	糖度 (%)	地色 カラーチャート 指数	ヨード 指数
		2月～4月末	165～175日	10/15～10/25				
ふじ	5月3日	即売～3月末	175～180日	10/25～10/30	14以上	14以上	4～5	1～2
		即売～年内	180～185日	10/30～11/4				

※ 満開日は農業研究センター観測値。

○ 収穫予想日は、満開日より機械的に算出した数値です。収穫にあたっては果実品質を確認の上、実施してください。

(2) 果実の樹上凍結の回避

樹上で果芯部まで凍結した果実は、内部褐変、硬度の低下、食味低下など果実品質が低下します。特に常温においた凍結果実は内部褐変が著しく増加し、冷蔵貯蔵でも貯蔵20日以降は内部褐変する果実が増加することが認められています（図5、6）。

したがって、このような果実の樹上凍結を回避するために、販売時期からみた適期収穫期を守り、過度に遅い収穫は避けるようにしましょう。

もし被害を受けてしまった際は、凍結果は押し傷がつきやすく品質の低下を招くので、樹上で解凍してから収穫してください。また、速やかに関係機関と協議の上、販売する場合は冷蔵貯蔵し、光センサー選果機等で褐変果を排除するようにしてください。

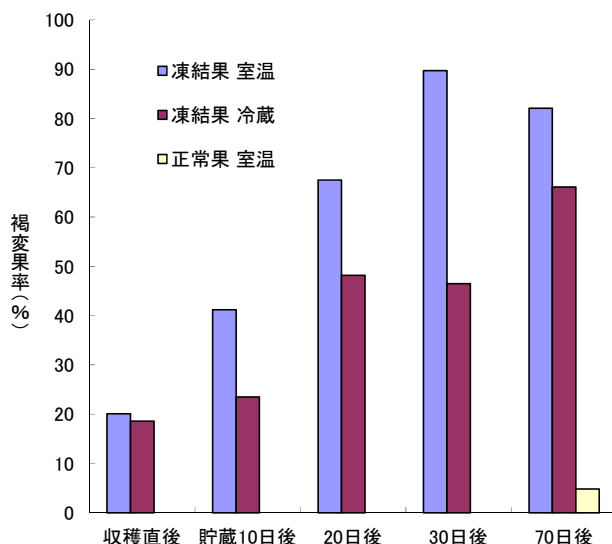


図5 果実の内部褐変率の推移



図6 内部褐変の様子

(3) 風害防止対策

11月は発達した低気圧の影響で思わぬ被害が発生する場合があります。強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を改めて確認してください。また、気象情報に注意し、場合によっては低気圧の接近前に収穫可能な晩生種は収穫を進めるなど、被害を最小限にできるような対策を講じてください。

(4) 病虫害防除対策

黒星病の発病葉・発病果は翌年の伝染源となるので、葉摘みや収穫作業の際にも、発病が確認された場合は見つけ次第摘み取り、土中に埋没させるか焼却するなどして処分してください。

3 除草剤の秋期処理

「ふじ」の収穫後から落葉する前まで（落葉後は散布ムラが出るため）に除草剤を処理することで、翌年の6月上旬頃まで雑草を抑えることができます。表3を参考に取り組みみてください。

秋は気温が低く、除草剤の効果が出るまで時間がかかりますので、草が枯れないからといって、再度処理する必要はありません。

なお、収穫後の秋期処理した除草剤は、翌年の農薬使用回数に含まれますので注意してください。グリホサート系除草剤（ラウンドアップマックスロードなど）は、風などで舞い上がり、樹体に付着すると、除草剤が直接付着しなかった枝でも、春以降に葉が柳葉状になる葉害を生じることがあります。グルホシネート系除草剤（バスタ液剤、ザクサ液剤など）は幹に薬剤が付着すると樹皮が粗皮状になり、幼木では枯死することもあります。除草剤を使用する際には、専用の散布器具を用いて、飛散しないよう注意しましょう。

表3 除草剤の使用体系（秋期処理）

優占草種	1回目(11月)	2回目(6月上、中旬)	3回目(8月上、中旬)
強雑草	吸収移行型 (通常散布)	吸収移行型 (通常散布)	吸収移行型 (通常、少量散布)
弱雑草	吸収移行型 (少量散布) または接触型	吸収移行型 (通常散布)	吸収移行型 (通常、少量散布)

注1)強雑草:タンポポ、クローバー、ヒメオドリコソウなど(除草剤の効きにくい草種)

弱雑草:ハコベ、メヒシバなど(除草剤の効きやすい草種)

注2)吸収移行型:グリホサート系除草剤など

接触型:グルホシネート系除草剤、ジクワット剤など

注3)グルホシネート剤、グルホシネートPナトリウム塩剤は、「吸収移行型」と「接触型」の中間タイプであり、移行性はあるものの雑草の地下部まで枯殺する効果が期待できないため、使用体系においては「接触型」としての位置づけとしている。

次号は11月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**農作業 ころのゆとりで
事故防止**

中央農業改良普及センター県域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。